

市政に対する

一般質問

各質問議員の
QRコードからは、
それぞれの一般質問の
動画をご覧いただけます。



中村 和彦 議員

- 総務分野の諸課題について
- 福祉分野の諸課題について
- 産業分野の諸課題について
- 部活動の地域移行について



一般質問はこちら

企業の本社機能や研究機関の移転を促進するための支援制度を

質問

コロナ禍の影響により、本社機能や研究機関等を地方に移転させる都市部の企業が増えてきました。

真岡市にも、本社機能や研究機関等を誘致されれば、より強固な財政基盤の確立、企業の撤退リスクの軽減はもちろんのこと、若者の雇用定着や定住促進も期待できます。

しかし、現状では企業の本社機能や研究機関の移転を促進する市独自の支援制度がありません。創設を検討すべきではないでしょうか。

答弁

本市では、企業立地促進事業費補助金や水道料金の補助制度のほか、工場跡地等への立地を支援する工業用地有効利用促進事業費補助金など、企業立地を促進する各種制度を設けています。

企業の本社機能や研究機関の移転に特化した支援策は、現在のところ行っていませんが、企業の定着や財政基盤の確立の面で重要ですので、今後本市に相応しい制度について検討します。

他自治体の事例 栃木県…本社機能、研究機関などの移転を促進するための建物賃借にかかる賃貸料の補助制度
宇都宮市など…オフィスの賃借料や改修費の補助など、オフィス移転にかかる補助制度



日下田喜義 議員

- S D G s の推進について
- 太陽光発電について
- ごみ処理について



一般質問はこちら

2030年に向けた 今後のS D G sの展開は

質問

現在の自治体の取組・展開は、一極一様に留まった展開ではなく、多種多様な手法や目標になっています。

一つの自治体の中で、勘違いや思い違いがあってはならず、S D G s を共通目標に自治体間の連携が進められているところであり、「S D G s 日本モデル宣言」などの活動に乗り遅れてはならないと考えます。そこで、2030年に向けた、今後のS D G s の展開をどのように考えているのか伺います。

答弁

総合計画2020-2024やまち・ひと・しごと創生総合戦略では、各施策とS D G s が掲げる17のゴールを関連づけており、それらを着実に推進していくことで、S D G s の達成に寄与するものと考えています。

今後は、本市も加入している内閣府が運営する「地方創生S D G s プラットフォーム」から得られる情報を活用しながら、官民一体となった、持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。

国では、特に2020年度は今後の10年を2030年の目標達成に向けた「行動の10年」とすべく、2020年に実施する政府の具体的な取組を盛り込んだ「S D G s アクションプラン2020」を策定しています。



七海 朱美 議員

- ユニバーサル就労支援について
- 真岡まちづくりプロジェクトについて
- 学校給食について
- 不登校対策について



一般質問はこちら

不登校者を増やさないための 対策は

質問

新型コロナの発生により、児童生徒の心に与える影響がとても大きくなっています。それにより、無気力や学校に行く意欲が軽減してしまっていることなどが想像できます。

このコロナ禍がいつ収束するのか、見通しが立たない状況にありますが、不登校者が増えてしまうことは、避けなければなりません。

そこで、学校では、どのような対策をしているのか、また今後どのような対策をしていくのか伺います。

答弁

本市教育委員会では児童生徒が安全で安心できる環境を目指し、「魅力ある学校づくり」を推進しています。

学校生活に関する意識調査を行うことで、児童生徒の実態にあった生活環境の改善を図っています。今後は、人間関係に関するアンケートを実施し、その結果に対する対応を助言できる体制を検討していきます。

今後も、全ての児童生徒が、より安心、安全に学ぶことができる方法や場の提供に努めていきます。

不登校児童への対応…電話連絡や家庭訪問を定期的実施して対象者との関係を維持し、教育相談に応じています。また、スクールカウンセラー等の相談を勧めたり、もおおライプリー教室等への通級を紹介したりしています。



星野 守 議員

- 農業行政について
- スポーツ行政について
- 教育行政について
- マイナンバーカードについて



一般質問はこちら

飼料価格高騰への対策は

質問

飼料の価格が高騰し、畜産農家が苦境に陥っています。コロナ禍に端を発する物流の混乱やロシアのウクライナ侵攻、今年に入ってから急速に進んだ円安が複合的に価格を押し上げているためです。特に酪農業では、生乳の販売価格引き上げだけでは到底埋まらず、廃業を検討する農家も出る事態となっています。

そこで、畜産経営の安定・継続のための飼料価格高騰に対する国・県・市の支援の内容を伺います。

答弁

国や県による高騰への主な支援策として、配合飼料の契約数量に応じた助成金の支給、牛の頭数に応じた粗飼料の助成金や、自給粗飼料の拡大支援などが予定されています。

本市では、県助成金への上乗せ支援として、配合飼料で契約数量1トンあたり150円を、粗飼料については1頭あたり乳用牛2,500円、肉用牛500円を支給する「真岡市飼料高騰対策緊急支援事業」の補正予算案を、本会議に提出したところです。

飼料の価格高騰に対する栃木県による支援の補助率…配合飼料：契約数量1トンあたり500円、粗飼料：乳用牛1頭あたり5,000円、肉用牛1頭あたり1,000円



久保田 武 議員

- 人口減少対策について
- 図書館機能の拡充について
- 公共施設の利活用について
- 防災対策充実について
- 中心市街地リノベーション事業について
- 子育て支援について



一般質問はこちら

真岡市就労者定住促進奨学金返還支援事業の拡充を

質問

真岡市就労者定住促進奨学金返還支援事業は、Uターン者増加への取組として、とても分かりやすく、最も効果のある事業ではないかと思っています。現在は、日本学生支援機構の第一種奨学金など、いくつかの奨学金に限られていますが、限定するのは不公平な感じがします。

一般会計当初予算の1%くらいの枠を確保して、制度の拡充を図っても良いのではないのでしょうか。

現状と、拡充への考えを伺います。

答弁

本事業は、平成28年度に開始し、令和2年度に市内勤務の条件を緩和、令和3年度には助成対象を大学院、短期大学、高等専門学校まで拡充しました。申請者は、令和元年度7名、令和2年度18名、令和3年度34名であり、年々増加しています。

補助要件の緩和により申請件数が増え、本市への移住・定住に向けた対応が図られていますので、拡充は考えていません。引き続き、本制度の利用促進を図っていきます。

真岡市就労者定住促進奨学金返還支援事業…奨学金を受けて大学、短期大学、高等専門学校、大学院に進学した方が、卒業後に真岡に住所を置き、就職した場合に返済された奨学金の一部を補助する制度です。



飯塚 正 議員

- マイナンバーカードと健康保険証との一体化について
- 新型コロナウイルス感染症対策について
- 補聴器購入補助について
- 学校給食費無償化について



一般質問はこちら

補聴器の購入に対する助成制度を

質問

身体障がい者とは認定されていない中度・軽度の加齢性難聴者への支援として、補聴器を購入する際に自治体が費用の一部を助成する制度が広がっています。令和4年10月31日現在で実施している自治体は全国に114市区町村あり、前年7月時点の35自治体から、1年余りで約3倍という急速な広がりを見せています。

高齢者の暮らしを支え、認知症を予防するためにも、補聴器購入助成制度を検討してはいかがでしょうか。

答弁

高齢者が難聴になると、生活の質が低くなるのが感念されています。また、難聴は、認知症の危険因子の一つとされており、国は、補聴器を用いた聴覚障がいの補正による認知機能低下の予防効果を検証する研究を進めているところです。

本市としては、聴力機能の低下により日常生活に支障をきたすと考えられることから、加齢性難聴者の状況の把握に努め、補聴器購入助成について検討してまいります。

認知症の危険因子…難聴のほかに、加齢や高血圧、糖尿病などが認知機能低下の危険性を高めると言われています。



麦倉 竹明 議員

- 農業行政について
- 五行川遊水地について
- 教育関係について
- 公共施設の利活用について



一般質問はこちら

危険通学路への対策は

質問

令和3年9月議会の一般質問では、同月中に通学路安全対策会議を開き、危険箇所解消に向けた対策を講じていくとの答弁でしたが、現在の進捗状況と、県道216号岩瀬二宮線の通学路への対応をお伺いします。

危険箇所にすぐ対応するのは大変だと思いますが、前回も言ったように、対応するまでの間に事故が起きるなど、何かあってからでは悔やみ切れませんので、よろしく願います。

答弁

通学路の危険箇所については、各小学校から89箇所の報告を受け、解消に向け対策を講じています。対策の内容は、歩道・路側帯の整備、ガードパイプの設置、通学路変更の検討、交通安全指導などです。

久下田小学校の通学路である県道岩瀬二宮線の筑西市樋口地内については、筑西土木事務所から「来年度、ポストコーンや、グリーンベルトの設置を予定している」と聞いています。

グリーンベルト…運転者が、車道（車両が通行できる範囲）と路側帯（歩行者が通行でき、車両が通行できない範囲）をより明瞭に視認できるよう、路側帯を緑色に着色したものです。